

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校

定時制・通信制課程

第8号 2020. 12. 14 (月)



< 人権・同和教育講演会 >

12月8日、中村清志さんを講師としてお招きし、「出会いと出会い直し」という演題でご講演いただきました。定時制昼間部・通信制の生徒も、定時制夜間部の生徒も参加できるように、そして新型コロナウイルス感染症予防対策として、講演会を3回(昼2回+夜)設定し、中村さんには長時間滞在していただきました。事前に準備していただいた映像や資料を取り入れながら、わかりやすく、丁寧に、そしてユーモアも交えてお話いただきました。中村さんのお話全てを、ここで文字としてお伝えするのはとても困難ですので、お話の中にあっという間のキーワードと、参加した生徒のみなさんの感想を紹介したいと思います。

～中村清志さんの講演より～

「私にとって愛とは？」

根底に愛がなければ人権教育、同和教育はない。

愛とは、ぬくもりであり、小さな勇気であり、やむにやまれぬ自然の衝動である。

愛とは、相手が一番知りたいことやして欲しいことを与えることである。

新型コロナウイルス感染症について。感染したことを平気で誰にも言える社会になってほしい。

支援を必要とする人が自分から言える社会であってほしい。

はた目には軽く見えるモノでも、すでに限界に達している者には取り返しがつかないダメージを与えてしまうことがある。限界を生きている人が「限界だ」と言える社会に。「生きることも捨てたものではない」という情報を発信したい。

「出会いと出会い直し」

雲がくっついたり離れたりするように、人には嬉しい出会いや悲しい別れがある。

いろいろな出会いがある。意に沿わない出会いもある。

大事なものは出来事ではない。出会いや出来事や過去は変えられない。その時その時どう心を決めるか。

出会いとは、他者が自分の中に生き続け、自分に働きかけ気持ちを起こさせること。

「わたしが生まれてきたわけは」

まっとうに生きるため。

まっとうに生きるとは、おてんとさまにまっすぐ顔を上げて歩くこと。堂々と恥じることなく生きること。

人は犯した罪でまっとうに裁かれなければならない。まっとうに処分されなければ被害者も加害者もまっとうに救われぬ。

生きていると理不尽な扱いを受けることがある。理不尽なやり方で仕返しをしてはいけない。

「約束」

希望や約束が現実となり、社会を前進させている。

一方通行の約束をしながら生きている、それが人生。

心のあり方によって強く生きていける。

生きることの反対は生まれないこと。人はそこにいてだけで価値がある。

「学ぶとは誠実を胸に刻むこと。教えるとは希望を共に語ること。」(ルイ・アラゴン)

(裏へ続く)

～生徒のみなさんの感想より～

- ・「まっとうに生きる」この言葉を聞いた時思ったのは、「まっとうに生きるとは何？」ということでした。今回の人権・同和教育講演会は、「まっとう」ということについて教えてもらった気がします。私は話の中ですごいと感じたところがありました。それは、ちゃんと言えるということです。高校の非常勤でちゃんと教えることができなかつたことを、もし自分がその立場なら顔を上げてまっとうに生きたとは言えないと思います。ですが中村さんは顔を上げて言うことがまっとうに生きることだと感じました。私は小さい時は気が弱かったのでうじうじしていましたが、母の「後ろめたいことがないなら胸を張っていなさい」という言葉が私を変えてくれました。母と中村さんの言葉を胸に刻んでまっとうに生きていきます。
- ・私は、人権とは愛を持って接することだと分かりました。人との違いで苦しくなる人がいる中、コロナで社会が変わる一方で、私を含めた皆が、その人達を温かく迎え入れられるよう変わらなければならないと感じました。
- ・愛は家族の間だけじゃなく全然関係ない他人の間にもあるんだなと思いました。これからは、障がい者や困っている人に躊躇なく素直に手を差し伸べられるような人間になりたいなと思いました。
- ・とても良い時間になりました。話を聞きながら今の自分の生活を思い出して考えたり、振り返ったりしていました。今の自分は、自分と向き合うのが嫌で逃げてばかりでしたが、今後また考えていきたいです。出会い直しという言葉がすごく印象深く、これから生きて行く中でいろいろ大変でくじけそうなことも多いと思うけど、考え方や環境でもいろいろ変わるので頑張っていきたいです。
- ・「人間には忘れ得ぬ人がいる」という言葉を聞いて、私にも思い出の中に忘れられない人がいるなと思い、とても納得しました。また、講演中に視聴した動画を見て、なぜ自分は生まれたのだろうかと考えきっかけになりました。私は今までそんなことを考えたことがなく、ただ生まれたからそれだけのことだと思っていました。だから今日の講演会で中村さんに生まれたわけを問われた時、とても驚きました。視聴した歌と、中村さんの言葉を聞いて、改めて考えてみると、生まれてきたわけは、私が思っているよりたくさんあるのではないかと感じました。親に会うためかもしれないし、きょうだいに会うためかもしれない、あるいは小学生の時に会った文学に会うためだったり、親友と会うためだったのかもしれない。今回の講演で、たくさんのことを考え、感じてみることができました。
- ・中村さんのお話を聞いて、出会いと出会い直しについて改めて考えるきっかけになったと思いました。中村さんの教員になったきっかけのお話の時に、ふとした出来事や人との出会いで自分の夢や道が決まることがあるんだと思い、自分もこれから生きていく中で、そんな千載一遇のチャンスを見つけていけたらいいなと思いました。そして、中村さんに生まれてきたわけはなんだろうと聞かれた時、私は自分や周りの人達が笑顔で幸せな日々を送るためかなと思いました。まっとうに生きるとは「おてんとさまにまっすぐ顔を上げて歩くこと」という言葉はすごく心に響き、これからそんな生き方をしていきたいと思いました。
- ・お母さんが亡くなっていて感謝の気持ちを伝えられなくてお墓に行ったっていう話を聞いて泣きそうになりました。お母さんにありがとうって伝えたいです。

人としてのあり方や今後の生き方について、また人との関わりについて、参加者全員が考えさせられたように感じました。生徒のみなさんの感想を読み、自分のことを振り返って素直に率直に書いてくれていることにうれしさと感動を覚えました。中村清志さんの講演によって、みなさんの心が解放されたところがあったのだと思います。また、講演の中で中村さんもおっしゃいましたが、生徒のみなさんの聴く姿勢がとても素晴らしく感動しました。その姿勢も「人としての在り方・生き方」「人との関わり」にそのままつながっています。

(人権・同和教育担当：岡崎)

<いつも見ているから… いつも見護っているから…>

タイトルの言葉は、高1の終わりに恩師である中村清志先生が色紙に書いてくださったメッセージです。在学中も卒業してからもずっとお世話になっていて、私が「高校の教員になりたい」と思うようになったのも、中村先生に出会ったおかげです。人生には、自分自身の生き方を決める(変える)とても重要な出会い(出会い直し)があります。生徒の皆さんにもそういう素敵な出会いが訪れることを心から願っています。(生徒部 人権・同和教育推進委員：春木)